(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3162774号
(U3162774)
(45)発行日　平成22年9月16日(2010.9.16)　(24)登録日　平成22年8月25日(2010.8.25)

(51)Int.Cl.　　F I
G02C 1/00 (2006.01)　　G02C 1/00
G02C 5/14 (2006.01)　　G02C 5/14

評価書の請求 未請求　請求項の数 6　ＯＬ　（全 8 頁）

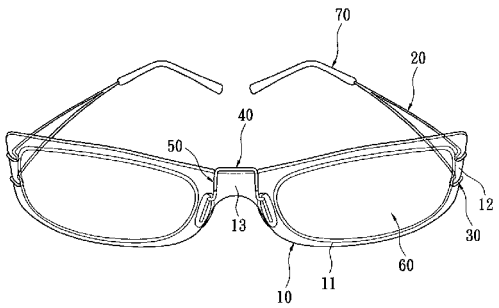
(21)出願番号　実願2010-4529(U2010-4529)
(22)出願日　平成22年7月5日(2010.7.5)
(31)優先権主張番号　099204381
(32)優先日　平成22年3月12日(2010.3.12)
(33)優先権主張国　台湾(TW)

(73)実用新案権者　507171524
侯　美月
台湾台南県永康市大湾路９４２巻７１弄１６９號
(74)代理人　100087767
弁理士　西川　惠清
(74)代理人　100155745
弁理士　水尻　勝久
(74)代理人　100143465
弁理士　竹尾　由重
(74)代理人　100155756
弁理士　坂口　武
(74)代理人　100161883
弁理士　北出　英敏

最終頁に続く

(54)【考案の名称】眼鏡構造

(57)【要約】　（修正有）
【課題】眼鏡フレームと、二つのテンプルと鼻パットを含み、ネジ固定を使用する必要がない眼鏡構造を提供する。
【解決手段】眼鏡フレーム１０は左右にそれぞれ設けられる智部１２とそれぞれの智部の間の中間部１３を有し、テンプル２０の前方にはそれぞれ弾性固定部材３０が設けられ、弾性固定部材は対応する智部に固定され、鼻パット４０には弾性締め具５０が設けられ、この弾性締め具は中間部に拘止され、これにより、ねじ固定を使用する必要がなく、テンプル２０や鼻パット４０などの部材は眼鏡フレームに固定し接続される。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
眼鏡構造であって、
左と右にそれぞれ設けられる智部及び、前記それぞれの智部の間の中間部を含む、眼鏡フレームと、
対応する前記智部に固定される弾性固定部材がそれぞれ前方に設けられる二つのテンプルと、
弾性締め具を有すると共に前記弾性締め具は前記中間部に拘止される鼻パットと、
を含むことを特徴とする眼鏡構造。
【請求項２】
前記眼鏡フレームのそれぞれの智部の内側には凹形状の嵌め込み溝があり、それぞれの前記弾性固定部材は、対応する前記智部内側に固定させると共に前記嵌め込み溝に係合させるためのＵ字型のホールダーを有することを特徴とする請求項１に記載の眼鏡構造。
【請求項３】
前記眼鏡フレームのそれぞれの智部の外側には第一拘止溝があり、それぞれの前記弾性固定部材は前記ホールダーに接続される第一拘止部を有し、前記第一拘止部は前記智部外側に拘止されると共に前記第一拘止溝に係合されることを特徴とする請求項２に記載の眼鏡構造。
【請求項４】
前記眼鏡フレームの中間部には左と右とに間隔を置いて二つの貫通孔があり、前記弾性締め具は二つのロッドを有し、前記二つのロッドは前記二つの貫通孔を貫通して設置されることを特徴とする請求項３に記載の眼鏡構造。
【請求項５】
前記眼鏡フレームの中間部には第二拘止溝があり、前記弾性締め具はＵ字型で、その両端が前記二つのロッドに接続される第二拘止部を有し、前記第二拘止部は前記第二拘止溝に拘止されることを特徴とする請求項４に記載の眼鏡構造。
【請求項６】
前記第一拘止部はＵ字型あるいはＴ字型であることを特徴とする請求項３に記載の眼鏡構造。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は眼鏡構造に関し、より詳しくは、ねじ固定を使用する必要がなく、各構成部材が相互に接続されている眼鏡構造に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来から、眼鏡の各構成部材（例えば、眼鏡フレーム、テンプル、鼻パットなど）の接続方法は基本的にはすべてねじによって、固定し接続されることが幅広く知られている。
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００３】
しかしながら、前述した従来の技術では、眼鏡を使用してからある程度時間が経過すると、ねじが緩み、落ちることによって、各構造部材が外れることがあり、このため、眼鏡使用者にとって不便が発生するといった問題があった。
【０００４】
本考案は、このような従来の問題点に鑑みてなされたものである。上記課題解決のため、本考案はねじを使用することなく、テンプル、鼻パットなどの構成部材を眼鏡フレームに固定、接続させる眼鏡構造を提供することを主目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】

本考案によれば、左と右にそれぞれ設けられる智部及び、前記それぞれの智部の間の中間部を含む、眼鏡フレームと、対応する前記智部に固定される弾性固定部材がそれぞれ前方に設けられる二つのテンプルと、弾性締め具を有すると共に前記弾性締め具は前記中間部に拘止される鼻パットと、を含むことを特徴とする眼鏡構造が提供される。

【考案の効果】

【０００６】

本考案によれば、テンプルは弾性固定部材によって眼鏡フレームに固定し接続され、鼻パットは弾性締め具によって眼鏡フレームに固定し接続され、これにより、本考案の構造は単純で、ねじ固定や溶接といった方法を用いなくても、眼鏡の各部材が相互に固定、接続させられ、組み立てが便利なだけでなく、緩んだり、外れたりしないため、眼鏡使用者にとって不便が発生せず、安心して使用できる眼鏡が得られる。

【図面の簡単な説明】

【０００７】

【図１】本考案の第１実施形態に係る眼鏡構造の立体構造概略図である。

【図２】本考案の第１実施形態に係る眼鏡構造の別の角度から見た立体構造概略図である。

【図３】本考案の第１実施形態に係る眼鏡構造の眼鏡フレームとテンプルを示す立体構造概略図である。

【図４】本考案の第１実施形態に係る眼鏡構造の眼鏡フレームと鼻パットを示す立体構造概略図である。

【図５】本考案の第２実施形態に係る眼鏡構造の眼鏡フレームとテンプルを示す立体構造概略図である。

【図６】本考案の第３実施形態に係る眼鏡構造の上面図である。

【考案を実施するための形態】

【０００８】

以下、本考案を実施するための形態について、詳細に説明する。なお、本考案は、以下に説明する実施形態に限定されるものではない。

【０００９】

〔第１実施形態〕

まず、本考案に係る眼鏡構造の第１実施形態について説明する。

【００１０】

図１と図２は本考案の第１実施形態に係る眼鏡構造を示しており、眼鏡フレーム１０、二つのテンプル２０、鼻パット４０から構成される。ここでは、眼鏡フレーム１０は二つのレンズ穴１１を有し、それぞれのレンズ穴１１の内側にはレンズ６０が装着される。眼鏡フレーム１０の左右両末端部にはそれぞれ一つの智部１２が設けられ、智部１２はそれぞれレンズ穴１１の近傍にあり、眼鏡フレーム１０は二つの智部１２の間に中間部１３を有する。

【００１１】

二つのテンプル２０の前方末端には弾性固定部材３０がそれぞれ設けられ、この弾性固定部材３０は弾性を持つ材料から形成され、眼鏡フレーム１０の智部１２に固定される。図示されている弾性固定部材３０はテンプル２０前方の一部分を形成するが、これに限定されるわけではない。二つのテンプル２０の後方にはそれぞれモダン７０が設けられ、これにより眼鏡を快適に眼鏡使用者の耳の上に架けることが可能になる。

【００１２】

鼻パット４０には弾性締め具５０が設けられ、この弾性締め具５０は弾性を持つ材料から形成され、眼鏡フレーム１０の中間部１３に拘止される。上述の組み合わせにより、本考案の眼鏡構造が形成される。

【００１３】

また、図３と図４に示されているように、本実施形態の具体的な構造に関していえば、眼鏡フレーム１０のそれぞれの智部１２の内側には凹形状の嵌め込み溝１２１があり、図

示されている嵌め込み溝１２１の数は上と下と間隔をあけて二つあるが、数はこれに限らない。また、眼鏡フレーム１０のそれぞれの智部１２の外側には第一拘止溝１２２がある。眼鏡フレーム１０の中間部１３の中央には左と右と間隔をあけて二つの貫通孔１３１がある。また、眼鏡フレーム１０の中間部１３の片側には第二拘止溝１３２があり、第二拘止溝１３２は本実施形態では中間部１３の上側にあるが、この第二拘止溝１３２の位置はこれに限られるものではない。

【００１４】

それぞれの弾性固定部材３０は、U字型のホールダー３１と、第一拘止部３２を有し、各ホールダー３１はテンプル２０の一部が湾曲することによって形成される。第一拘止部３２とホールダー３１は互いに接続されている。ここでは、ホールダー３１の数は、嵌め込み溝１２１の数に応じて決まり、図式されている第１実施形態においては、間隔を置いて設けられる二つである。そして、第一拘止部３２はU字型で、この両端は二つのホールダー３１にそれぞれ接続されているが、詳細な構成はこれに限られるものではない。

【００１５】

弾性締め具５０は二つのロッド５１と、第二拘止部５２を有し、この第二拘止部５２は二つのロッド５１の間に接続される。図示されている第二拘止部５２はU字型で、その両端は二つのロッド５１にそれぞれ接続されているが、この形状はこれに限定されるものではない。

【００１６】

本考案の眼鏡構造は組み立てられるとき、それぞれの弾性固定部材３０のホールダー３１は対応する嵌め込み溝１２１に係合されるよう眼鏡フレーム１０の対応する智部１２の内側に固定され、第一拘止部３２は第一拘止溝１２２に係合されるよう智部１２の外側に固定される。このようにして、それぞれの弾性固定部材３０は眼鏡フレーム１０の対応する智部１２を挟んで固定し、これにより、二つのテンプル２０は眼鏡フレーム１０に固定される。

【００１７】

弾性締め具５０の二つのロッド５１は眼鏡フレーム１０の中間部１３の二つの貫通孔１３１に貫通して設置され、第二拘止部５２は眼鏡フレーム１０の第二拘止溝１３２に拘止される。このようにして、弾性締め具５０は眼鏡フレーム１０の中間部１３に固定され、これにより、鼻パット４０は眼鏡フレーム１０に固定される。

【００１８】

〔第２実施形態〕

次は本考案に係る眼鏡構造の第２実施形態について説明する。

【００１９】

図５は本考案の第２実施形態に係る眼鏡構造であって、ここでは、第１実施形態と同様の部材の符号は第１実施形態と同じ符号が振られており、第２実施形態と第１実施形態の違いは以下に記述される。

【００２０】

眼鏡フレーム１０のそれぞれの智部１２の内側にはただ一つの嵌め込み溝１２１があり、それぞれの弾性固定部材３０は一つだけのホールダー３１を有し、またホールダー３１は第一拘止部３３に接続される。ここでは、ホールダー３１はU字型であるが、第一拘止部３３はＴ字型であり、ホールダー３１は嵌め込み溝１２１に係合されるよう対応する智部１２の内側に固定され、第一拘止部３３は第一拘止溝１２２に係合されるよう智部１２の外側に固定される。

【００２１】

〔第３実施形態〕

次は本考案に係る眼鏡構造の第３実施形態について説明する。

【００２２】

図６は本考案の第３実施形態に係る眼鏡構造であって、ここでは、第１実施形態と同様の部材の符号は第１実施形態と同じ符号が振られており、第３実施形態と第１実施形態の

違いは以下に記述される。

【００２３】

蝶番８０をそれぞれのテンプル２０の中間であり、弾性固定部材３０の後方に設けさせる。これにより、各テンプル２０は折畳み機能が付与され、眼鏡使用者が眼鏡をしまう時により便利になる。もちろん、蝶番８０は第２実施形態のテンプル２０に設けさせることも可能であり、同様の折畳み機能が付与される。

【００２４】

上述したとおり、本考案の眼鏡構造のテンプルは弾性固定部材によって眼鏡フレームに固定し接続され、鼻パットは弾性締め具によって眼鏡フレームに固定し接続され、これにより、本考案の構造は単純で、ねじ固定や溶接といった方法を用いなくても、眼鏡の各部材が相互に固定、接続させられ、組み立てが便利なだけでなく、緩んだり、外れたりしないため、眼鏡使用者にとって不便が発生せず、安心して使用できる眼鏡が得られる。

【００２５】

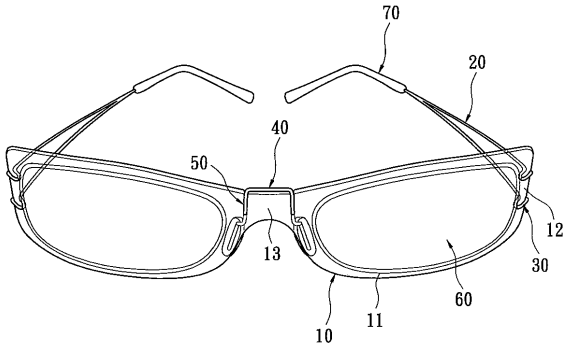
上述の実施例は本考案の技術思想及び特徴を説明するためのものにすぎず、当該技術分野を熟知する者に本考案の内容を理解させると共にこれをもって実施させることを目的とし、本考案の特許範囲を限定するものではない。従って、本考案の精神を逸脱せずに行う各種の同様の効果をもつ改良又は変更は、本考案に含まれるものとする。

【符号の説明】

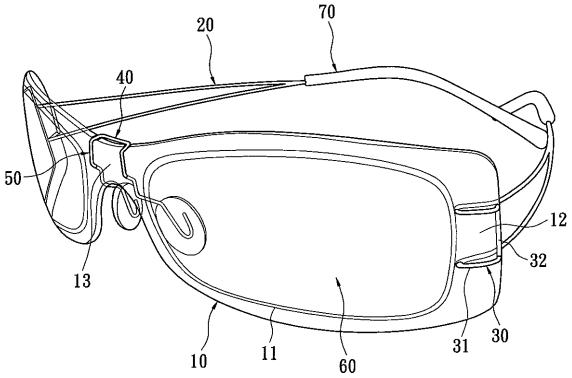
【００２６】

１０　眼鏡フレーム
１１　レンズ穴
１２　智部
１２１　嵌め込み溝
１２２　第一拘止溝
１３　中間部
１３１　貫通孔
１３２　第二拘止溝
２０　テンプル
３０　弾性固定部材
３１　ホールダー
３２　第一拘止部
３３　第一拘止部
４０　鼻パット
５０　弾性締め具
５１　ロッド
５２　第二拘止部
６０　レンズ
７０　モダン
８０　蝶番

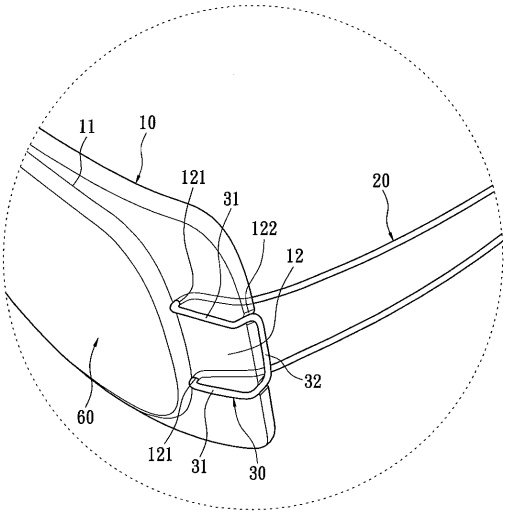
【図１】


70
20
40
50
12
13
30
60
10
11

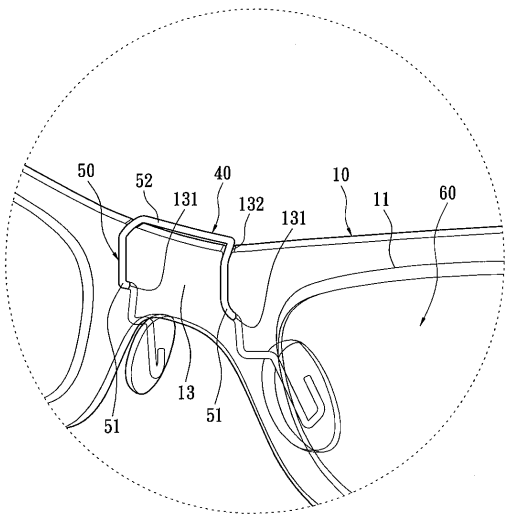
【図２】


20
70
40
50
12
32
13
10
11
60
31
30

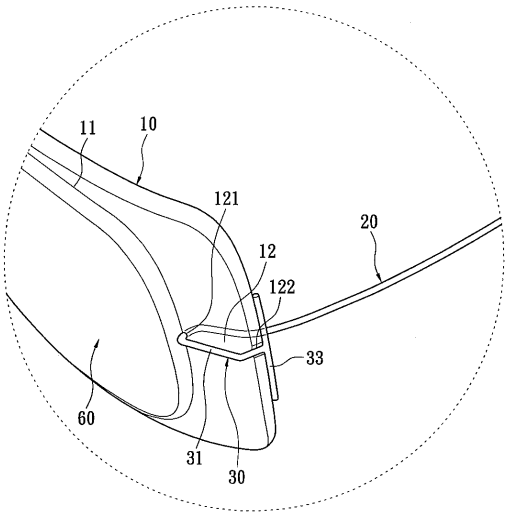
【図３】


11
10
121
31
20
122
12
32
60
121
31
30

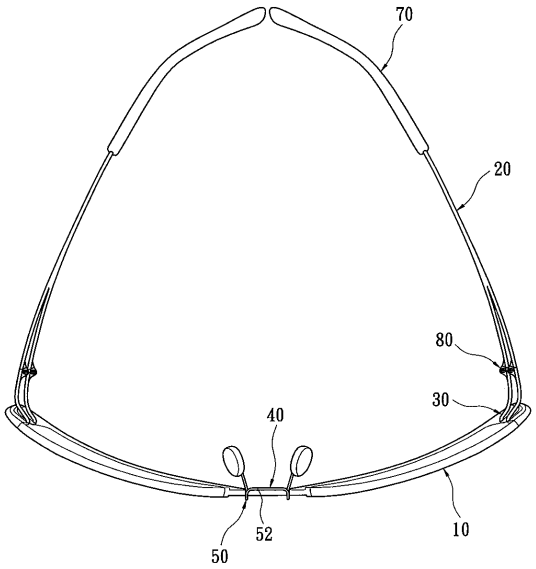
【図４】


50
52
131
40
132
131
10
11
60
13
51
51

【図５】


11
10
121
20
12
122
33
60
31
30

【図６】



フロントページの続き

(74)代理人 100167830
弁理士 仲石 晴樹
(74)代理人 100136696
弁理士 時岡 恭平
(74)代理人 100162248
弁理士 木村 豊
(72)考案者 張 多六
台湾台北市士林區雨聲街６５巷２５號１樓